

●コレクション・データ

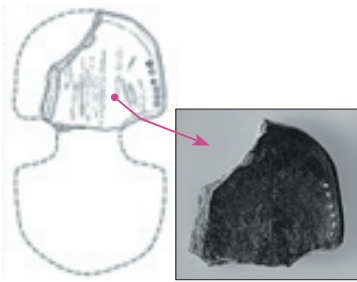
時代 弥生時代

出土地 唐古・鍵遺跡 第48次調査

発見年 1992年

大きさ 残存長6.89cm、厚さ0.86cm

展示位置 第1室・「まつりといのり」



唐古・鍵考古学ミュージアム

KARAKO-KAGI ARCHAEOLOGICAL MUSEUM

ミュージアムコレクション 51

分銅の形をした土製の「お守り」

一分銅形土製品

今回紹介する資料は、分銅のような形をした板状の土製品、「分銅形土製品」と呼ばれるものですが、下半部と上半部の左端が欠損した小さな土製品です。重さを量る「分銅」に形が似ていることから、この名が付けられています。弥生時代に計量器は知られておらず、その用途については、異なった解釈がされています。

この分銅形土製品は、近畿で出土することは稀で、岡山県南部の瀬戸内地域を中心に約700点あまりが出土しています。上半部に眉や目、口を表現した顔のあるものや、縁に沿って櫛描文様を描いたもの、細い棒で刺突したもの、赤色顔料が塗られたものなどさまざまな例がみられます。

すが、確実なことは分かっていません。顔が表現されたものは、「笑う」ものが一般的で、古代には「あざ笑う」行為に邪霊を打ち破る意味があったとされています。この「笑う」という表情に注目すると、分銅形土製品の「護符」説は、その可能性を補強することになります。

さて、唐古・鍵遺跡の分銅形土製品の右側縁辺には、6個の小孔があげられており、飾りなどを取り付け、頭をイメージさせたのかもしれませんが。しかし、顔の表現はなく、「笑い」が魔除けになるというアイデアは既に忘れられています。この土製品の分布の最東端に位置する唐古・鍵遺跡では、形のみで「お守り」として大切にされたのかもしれない。

唐古・鍵考古学ミュージアム

【 ☎ 34・7100 】

開館時間 午前9時～午後5時（月曜は休館）
 観覧料（カッコ内は20人以上の団体料金／15歳以下は無料）
 ▼大人 200円（150円）
 ▼高校生・大学生 100円（50円）

ミュージアム上面図と展示位置

